

西河技術経営塾研究科前期 講義録 SH12

作成：渋谷 加津美

**日時**：平成 30 年（2018 年） 3 月 29 日（木）午後 6 時 00 分 ～ 午後 7 時 00 分

**場所**：アーネスト育成財団内会議室（渋谷区代々木 1-57-2 ドルミ代々木 704 号）

**講師**：小平和一郎

**研究生**：渋谷加津美

**講義名**：(SH12) <sup>1</sup>「査読論文課題について」

**講義資料**：破壊的イノベーションと経営

## 講義内容

### 1. 概要

第 12 回目（SH12）の講義（研修）を行った。内容は、以下の通り。

敬愛大学での研究生のビジネス事例報告「市場創生の方法を考える」の方向性の確認と査読論文「イノベーションビジネス創出論」への取組について学んだ。

### 2. 研究内容

#### （1）事例報告について

事例を「放送局向けデジタル音声卓による新規販路拡大」として報告する。

放送局の生番組収録スタジオの音声設備は、長い間アナログ機器が主流であった。デジタル技術の発展に合わせてデジタル音声設備の導入がなされたが、CPU や OS の障害による放送事故予防防止の信頼性の払拭が課題となり、市場拡大（デジタル機器による更新重要）が進まない状況であった。この状況を打開した事例を整理してみることにした。

#### （2）破壊的イノベーション

破壊的イノベーションに直面した時にうまく機能しないからといって、上流市場で企業を成功に導いてきた能力、組織構造、意思決定プロセスを捨てる必要はない。起業が直面するイノベーションの大部分は、持続的な性質のものであり、これらの能力は、このような種類のイノベーションに取り組むために作られている。そのような企業のマネジャーは、これらの能力、文化、慣行が、ある条件のもとでのみ有効であることを認識していればよい。

本内容を参考資料などで学び、実ビジネスでの事例と課題について報告するよう指導を受けた。

#### （3）その他

特になし。

### 3. 次回までの宿題

12 回の講義を終えて、事例報告のレジメ提出および研究参考資料での課題を整理して報告する。

### 4. 次回日程

（1）次回日程 5 月 22 日（火）敬愛大学事例報告のレジメレビュー日程後に決定する。

#### （2）参考資料

研究の参考資料として、下記を選定した。

『イノベーションのジレンマ』クレイトン・クリステンセン著

以上

---

<sup>1</sup>（注）SH01：SH とは、Shibuya のこと。01 は、1 回目。第 3 回は、SH03 となる。